『研究者が本当に伝えたかった

サカナと水辺と森と希望』

日本の自然を見つめ続けてきたフォトジャーナリスト・浦壮一郎氏が、魚類の生態や河川環境を研究する第一人者たちを取材。その過程で「放流しても魚は増えない、むしろ逆効果」、「ダムは洪水調節には不向き、単に生態系を破壊するだけ」など、これまで常識とされてきたことの多くに誤りがあり、取り組みを見直す必要があることを明らかにします。

本書はそうした水辺の番人といえる専門家たちの研究成果、そして将来に向けた貴重な知見や提言を、具体的な資料もまじえてなるべくわかりやすく紹介。砂防ダム、河口堰、導水事業、海岸浸食など、日本の水辺を取り巻く問題点を浮き彫りにしていきます。釣り人はもちろん、魚に優しい水辺の未来に思いをはせるすべての人に、今なにができるのかを考えさせる一冊です。

目次

第１章 河川における魚類の生態
第２章 渓流の釣り場管理について考える
第３章 川を壊すダム
第４章 豊かな森が豊かな川をつくる

著者：浦壮一郎
発行：釣り人社
定価：2,750 円
335 ページ